

## 「ブルームーン」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

地球のたった一つの衛星「月」は、満ち欠けをする。今夜はちょうど満月である。正確に言うと、完全に満月になるのはほんの一瞬だけで、その前後はすでに月はわずかに欠けている。月は東から西に動く間に、形を変えているのだ。今夜、完全に満月になったのは 19:42 頃だった。実はその一瞬ですら、完全な満月とは言えない。完全な満月を見るためには、太陽～地球～月が、正確に一直線にな並んでいる必要がある。しかし完全に一直線に並んでしまうと、皆既月食が起きてしまうのだ。わずかにずれているからこそ、満月が見えるのである。

月の満ち欠けの周期は約 29.5 日である。満月から次の満月まで 29.5 日ということだ。一カ月は 28 日から 31



日だから、うまくすると一カ月の間に 2 回満月が見られることがある。2015 年 7 月は、まさにそれに該当する。7 月 2 日と 31 日に満月が見られた。この二回の満月は「ブルームーン」と呼ばれ、三年に一度程度の周期で起きる。(稀に一年に 2 回起きることがある) ただし、ブルームーンは人間が決めた暦(カレンダー)の上に、たまたま満月が 2 回あったに過ぎず、「天文現象」の範疇には入らない。また、名称はブルーだが、その日だけ月が青く見えるわけでもない。

今夜の北軽井沢は雲が多いが、幸い、月の出の時刻は東の空(高崎市の方角)は雲が切れていた。私は「ブルームーン」の撮影に出かけた。

「2015 年のブルームーン」 7 月 31 日 19:42 に撮影した完全なる満月。

上の写真のような、満月の写真を撮るのは容易である。月そのものに露出を合わせれば良い。しかし、風景と一緒に撮らなければ、場所や季節感は表現できない。実は、これが非常に難しい。月に露出を合わせれば、地上の風景は暗くて何も写らない。逆に、地上の風景に露出を合わせれば、月が明るくなりすぎてつぶれてしまう。私は両方をきれいに撮る為に、長時間露光の間に、空の部分をしばらく遮光する方法をとっている。今回もその



方法で、月光が反映したレタス畑と、ウサギの模様が見える満月を、一緒に写すことができ、情景的な写真になった。

### 「ブルームーンと レタス畑」

2015, 7, 31 19:45

北軽井沢群高

ニコン D40 32mm

f=4.2 8 秒露光

ISO;1600

左の山は鷹繫山。

撮影 ; C. Tanaka